

## 令和6年能登半島地震

### ケアマネボランティア・災害ボランティア 活動報告 NO3

ケアプランセンター千代田 林隆夫

活動期間 令和6年6月22日(土)～6月24日(月)

活動場所 石川県輪島市、七尾市

#### 6年6月21日(金)

9:00 静岡発(静岡市葵区の特養「晃の園」の職員さん二人と車で出発)

16:30 輪島市活動拠点着

17:30 宿泊施設に移動(輪島港、朝市通り近く)

宿泊施設は1階が台所と食堂とトイレ、2階に和室が3部屋と洗面台と浴室、トイレがついている8畳ほどの和室を3人で使用 他の部屋には他ボランティアの団体の方が泊まっている様子 洗濯機があり廊下に干されている



#### 6年6月22日(土)

8:00 宿泊施設出発

8:30 活動拠点到着

日本介護支援専門員協会から派遣されている清尾氏(福岡県)と会う

8:45 オリエンテーション

調査時の注意事項等について説明を受ける

9:30 調査活動開始(4人で1台の車で出発 2人一組で調査)

清尾氏とペアになり調査活動行う。十数件訪問し8件ほど聞き取り調査を実施

13:00 午前中の活動終了 昼休憩

15:00 午後の調査活動開始

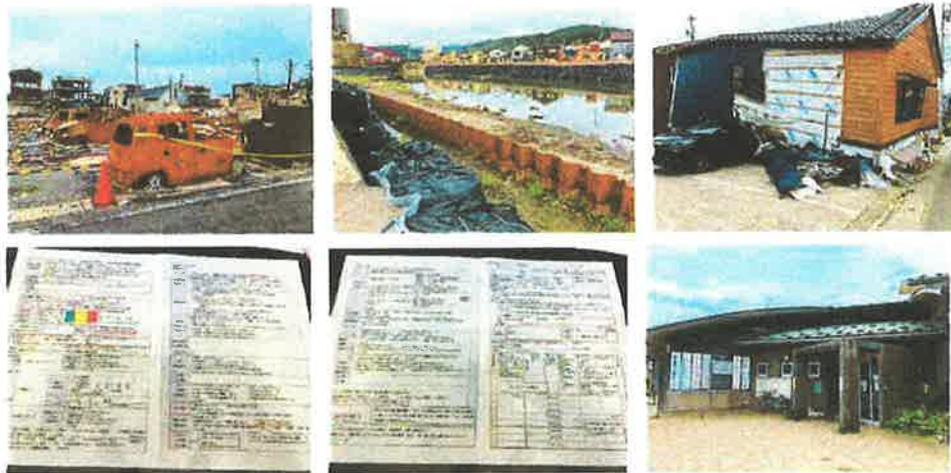
午前中の続きで10件ほど訪問し2～3件の聞き取り調査実施

16:30 午後の調査活動終了 拠点に戻る

調査票のまとめ(記入漏れなどチェック)

活動終了

宿泊施設に戻る



**6年6月23日(日)**

- 7:30 宿泊施設出発
- 8:00 活動拠点到着
- 8:45 オリエンテーション
- 9:00 天候が悪く午前中の調査活動は中止 調査票の入力活動と調査時の持ち物などの準備を行う  
輪島市門前町で調査活動を行っていたグループも合流し 40名以上が集まる。あての木園の細川さんに合う
- 12:00 昼休憩  
輪島市の天候は回復傾向で午後は調査活動再開予定
- 13:00 長野、愛知、静岡方面が大雨の予報のため午後の活動には参加せず帰路に就く



- 14:30 七尾駅着 (晃の園の方お二人はそのまま静岡に戻る)
- 15:30 翌日に七尾市の災害ボランティア活動を申し込んでいたので、災害ボランティアセンターを訪れ明日の活動について確認  
七尾駅前のホテルに宿泊

**6年6月24日(月)**

- 8:00 ホテル発
- 8:30 七尾市災害ボランティアセンター到着
- 9:00 オリエンテーション 班分け
- 9:30 災害ボランティア活動開始

- 軽トラックに積まれている災害ごみをごみの仮置き場<sup>か2か2</sup>に運びおろす（ごみを分別しないと処理施設で受け取ってくれない場合があるため）。その後ブロックの処理を希望されたお宅に向かい、ブロック等を2tトラックに積む。9人のメンバーで車は4台使用
- 11：30
- 13：00 午前の活動終了 ボランティアセンターに戻る  
昼休憩  
午後の活動開始。大きな木棚の処分を希望されたお宅に向かう。棚の分解や処理に工具が必要なため、ボランティアセンターで調達し持って行く。一部倒壊した家の前に張られたビニールシート
- 14：30 を外し、内部の大きな棚をバール等で解体しトラックに積み込む。解体した棚板の一部は再利用のためご自宅で保管される  
午後の活動終了 ボランティアセンターに戻る  
使用した道具を返却し終了 解散

15：56



17：20



- 18：05 七尾駅発七尾線で金沢に向かう
- 21：31 金沢着（電車の予約変更を行う）  
金沢発新幹線に乗車 帰路に就く  
静岡駅着

#### <活動の感想>

今回の活動は、ダイバーシティ研究会に属し輪島市で支援活動をしている渡嘉敷氏（静岡市清水河区在住）から連絡を受け参加することになった。同行されたお二人は特養児の園を運営する社会福祉法人に勤務されている方で、こちらの法人は以前から渡嘉敷氏と交友があり、能登半島地震の支援は2月頃から継続的に行っているとのこと、日程が合ったので法人の車に同乗させていただくこととなった。

静岡から車で7時間半、やっと輪島市に到着。途中の道路はやや修復が進んでいて、金沢市内からの行程は2時間半ほどに短縮された。私が前回訪問した3月末から3か月ほどが経過しているが、外観的には仮設住宅ができていて、解体工事が行われていること以外、市内の状況に大きな変化はないように感じられた。仮設住宅は一か所でも20軒程度の規模で建てられており、全体の敷地が狭くこじんまりした印象。平坦な土地が確保できないことが想像された。解体工事もちらほら見かける程度で、公費解体が進んでいないという報道が納得できる状況。

調査活動は最終盤を迎えており今月末で終了予定。精神保健福祉士、相談支援専門員など様々な職種の方が参加していた。3月に参加した時より調査票の項目が倍ほどに増えていた。各市町の判断で項目を追加しているとのこと。車の保有台数や住宅ローンの有無といった項目もあった。他の方が実施した調査票の入力作業にも携わったが、発災から半年が経過し被災された方々の生活が大きく変化していることを感じる。罹災証明が発行されている方がほとんどで、その多くが全壊または半壊。不自由な自宅で生活する方、仮設住宅に移られた方、金沢などで避難生活をしていて輪島に通っている方、そして、

依然として避難所生活している方。それぞれの不安、落胆、喪失感、不安そして行き場のない怒りなどが、各調査票に詰まっているようであった。

様々な状況の違いを内包しながら、地域の方が自分たちの未来の街をもう一度作り上げていくために、今何が必要なのだろうか。そして外部からの支援はどうかかわるべきだろうか。日没の遅い日本海の夕陽を見ながら、遠くからでもそこに関わり続けていきたいと願わずにいられなかった。

最終の24日（月）は七尾市で災害ボランティアに参加した。事前にネット上で登録と申し込みが必要。七尾市のボランティアセンターは全国からボランティアを受け入れている。朝8：45にボランティアセンターに集合し、オリエンテーションのあとにマッチングを行い、数名ずつのチームに分かれて活動していく。ニーズは震災ごみの撤去などが多い様子。私が所属したチームは午前中はブロック塀の撤去、午後は壊れた棚の撤去を行う。七尾市内も地区により被災し一部壊れている住宅が見られ、災害ごみが山積みになっている集積場も所々にあった。この日は40人ほどのボランティアの方が集まっていた。話を聞いてみると、宮城県や茨城県など遠方の方も多く、何度も繰り返し参加し活動を熟知されている“猛者”もいらっしゃる様子。年齢も下は高校生から、上はかなりご高齢とみられる方まで様々。皆さん、気持ちよく活動されていて、さわやかな印象を受ける。実際の活動時間は午前午後合わせても4時間ほどで、一日の成果はごく限られてはいるが、体を動かし汗をかいて、少しでも片付いた場所を見て被災者の方から感謝の言葉をかけていただくことでもあれば、また参加してみようかという思いがわいてくる、そんな感覚を久しぶりに体感した。